

# いま **反戦** **平和** を **考える**

あなたは本当に平和憲法を  
捨てるのですか？



## PROGRAM

- 講演** **ダグラス・ラミス氏**
- 合唱** 絹の道合唱団  
組曲「おやすみ子どもたち」
- 対談** **ダグラス・ラミス氏**  
×  
**鈴木亜英 弁護士**  
(国連NGO 国際人権活動日本委員会・議長)

作 ミヤケヨウコ

**日時** 4/27 Fri. 18:00開場 18:30開演

場所: 立川市女性総合センター・アイム1階ホール **入場無料**

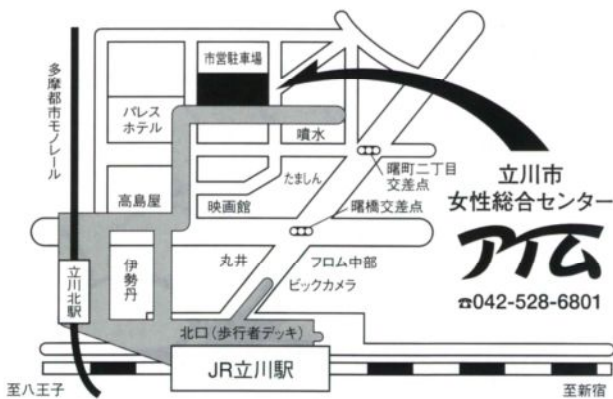
## MESSAGE

戦争の放棄、戦力の不保持を定めた憲法9条に本格的なバッシングが加えられるようになったのは、1990年に起こった湾岸戦争のころからでした。曰く、国際社会が一致して無法な侵略者を排除するために血を流し、汗を流しているのに、日本だけがお金をだすだけで済まそうとしている、日本が国際社会であたり前のことをする「普通の国」になるには、もはや憲法9条は捨て去るべきだ…という議論が公然と巻き起こりました。

それ以降、世界中でさまざまな軍事紛争があり、またアメリカやイギリスは正義の名のもとにイラクなどに戦争をしかけました。他方、北朝鮮のように軍事力を誇示しようとする国もあります。このような状況のなかで、私たちは、憲法9条のもつ現代的な意味をどのように考えたらよいのでしょうか。

憲法9条は、言うまでもなく憲法前文が謳う平和主義の考え方に基づいています。そこでは、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と宣言されています。私たちは、世界中の「平和を愛する諸国民」と連帯して、平和を創造することが求められているのです。そのことを外国の人々はどのように受けとめているのでしょうか。

2007年「三多摩憲法のつどい」では、長年沖縄に居住して平和の問題について考えてこられたダグラス・ラミスさんをお招きして、憲法の平和主義がもつ現代的意味について語っていただきたいと思います。そのお話は、私たちが憲法9条を捨て去る前に、もう一度思い直してみるべき憲法の平和主義のもつ価値に光をあてるものでしょう。



### ● 講演

## ダグラス・ラミス氏

○ダグラス・ラミス(C. Douglas Lummis)

1936年サンフランシスコ生まれ。専門は政治学。1960年海兵隊員として沖縄に駐留し、61年に除隊。関西に移り住み日本での活動を始める。2000年3月には20年間勤めた津田塾大学を退任し、沖縄に居を移し執筆・講演活動を中心に活躍。2001年9・11事件以降は沖縄海兵隊に向けて、反戦のビラを作成、反戦米軍のための新聞を発行する等の活動を続けている。著書『ラディカルな日本国憲法』、『なぜアメリカはこんなに戦争をするのか』(晶文社)など

### ● 合唱

絹の道合唱団・組曲『おやすみ子どもたち』

### ● 対談

ダグラス・ラミス氏 × 鈴木亜英弁護士

(国連NGO 国際人権活動日本委員会・議長)

連絡先

## 2007 三多摩憲法のつどい実行委員会

〒190-0022 立川市錦町1-17-5 三多摩法律事務所内 Tel.042-524-4321 Fax.042-524-4093